

なっていました。

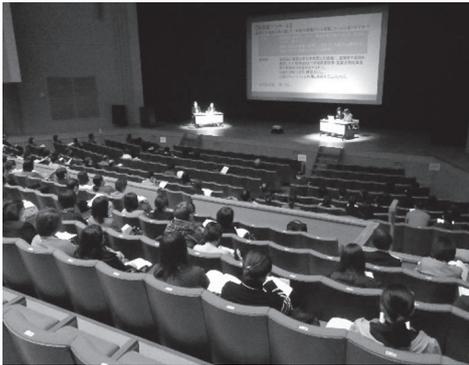
多くの施設のご協力をいただいたおかげさまで、一般演題においては合計102題の発表をいただきました。総勢345名の方が参加され、現地開催ならではの積極的な情報交換と活発なディスカッションを行なうことができました。

本学術集会開催にあたって、ご協力ご支援を賜りました関係各位の皆さまに心から感謝申し上げます。

第15回宮城県支部学術集会

学術集会会長：栗原市立栗原中央病院院長 中鉢誠司

2023年11月11日(土)に栗原市若柳総合文化センター(ドリーム・パル)大ホールにて、第15回宮城県支部学術集会を開催しました。



会場風景

今回のテーマは、「在宅医療連携と情報共有」ということで各医療機関の患者入退院支援部門のスタッフはじめ地域の在宅医療に関わる医療機関や訪問看護ステーション等の施設のスタッフなど幅広くご参加いただきました。

一般演題は18題の発表があり、活発な意見交換が行われました。特別講演では、田上佑輔先生(医療法人社団やまと/一般財団法人やまとコミュニティホスピタル光ヶ丘スペルマン病院理事長)をお招きし、「スペルマン病院から考える在宅医療連携・情報共有」をテーマに自叙伝も織り交ぜながら興味深いご講演をいただきました。

今回の参加者は総勢153名となり、学会非会員の参加も多かったことから、当学会について宣伝やアピールをすることができました。

最後に、開催にあたりご支援とご協力を賜りました関係各位の皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

第21回茨城県支部学術集会

学術集会会長：筑波記念病院副院長 池澤和人

『新しき道先がけ行かん』をテーマに掲げ、2023年11月11日(土)につくば国際会議場にて本学術集会を行いました。4年ぶりの現地開催であったにもかかわらず、

計371名の皆さまにご参加いただきました。

特別講演は東京大学 藤井輝夫総長による「多様性の海へ：対話が創造する未来」、教育講演では筑波大学 山海嘉之教授による「サイバニクス医療イノベーションによる未来開拓への挑戦」、特別企画として「医療者とメディカルAIのコラボレーションによる医療の革新」を国立がん研究センター 小林和馬先生にご講演いただきました。

なお、一般演題76題(口演52、ポスター発表24)の中から7題の優秀演題を選定しました。どの発表も素晴らしく審査に苦慮しましたが、口演では筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの関由紀子先生、ポスター発表では筑波メディカルセンター病院の片原佳恵先生がそれぞれ最優秀として表彰されました。

第22回山口県支部学術集会

学術集会会長：山口県済生会下関総合病院院長 森 健治

2023年11月11日(土)下関市安岡町の済生会下関総合病院管理棟3階講堂において第22回山口県支部学術集会を開催し、104名の参加を頂きました。

本学術集会ではテーマを「持続可能な働き方改革～山口県の未来のために～」とし、一般演題として口演6題、ポスター2題の他、特別講演およびシンポジウムを行いました。

特別講演では香川県済生会病院院長 若林久男先生をお招きして「医師の働き方改革は病院改革の入口～すべての医療者と患者さんのために～」と題し、医師の時間外管理に関する考え方や全国で行われている好事例についてご講演頂きました。

また、シンポジウムでは「持続可能な働き方改革」というテーマで、厚生労働省より石丸文至先生(前下関保健部長)をお招きして行政側の視点を論じていただきました。他にも2名のシンポジストをお招きし、それぞれの取組みについて発表して頂きました。

本学術集会は県内外から多数のご参加をいただき盛会のうちに無事終了することができました。ご指導とご協力いただきました関係各位へ感謝申し上げ、開催の報告といたします。

支部学術集会開催案内

— 第16回大阪支部学術集会 —

学術集会会長 地方独立行政法人りんくう総合医療センター
理事長 山下静也